

サシバエ対策は5月から！

◇サシバエの脅威◇

サシバエは、雌雄とも吸血性です。針のような長い口吻で皮膚を刺し、数分かけて自分の体重と同程度の量の血液を吸血します。

吸血時には強い痛みを伴うため、牛はストレスから採食減少や睡眠障害となり、乳量低下、増体減少、乳房炎などの影響がでます。直接的な影響以外にも、牛白血病やサルモネラ症などの感染症を媒介することでも知られています。

また、サシバエは、人を刺すこともあり注意が必要です。

◇サシバエの対策◇

① 発生源(幼虫)対策

主な発生源は、有機物があり水分が多く(60～80%)、牛に踏まれにくい場所です。餌箱・水飲み場周囲、堆肥舎、敷料・牛床マット下やバークリナー等です。

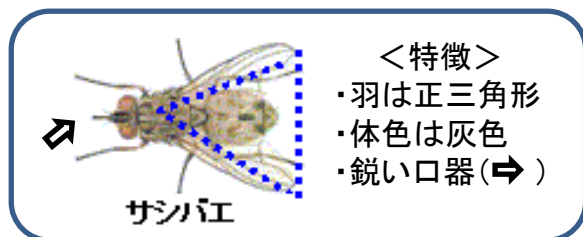
糞便や残飼はこまめに除糞や掃除を行い、発生源となる場所を少なくしましょう。発生源を除去できない場所には、ウジの発生頻度に応じ、IGR剤や殺ウジ剤を散布(最低月2回、11月くらいまで)しましょう。

また、敷料交換の際の消石灰散布は、ウジ発生の予防となります。

② 生育場所(成虫)対策

サシバエの成虫は、吸血時以外は畜舎付近にいます。牛舎周辺の草を刈り、サシバエの休憩場所を無くしたり、牛体に直接かける忌避剤等も効果的です。

牛舎内へのサシバエの侵入を防止する防虫ネットも有効です。



＜特徴＞

- ・羽は正三角形
- ・体色は灰色
- ・鋭い口器(⇒)

◇大量発生した場合の対策◇

- 即効性のあるピレスロイド系殺虫剤、有機リン系殺虫剤および両者混合の殺虫剤を空間噴霧します。ただし、牛体にも噴霧できる薬剤は限られているので、説明書の確認が必要です。
- 散布は、早朝、夕方、夜間が効果的です。
- 同じ種類の薬剤のみを連続使用すると、サシバエが薬剤に対して抵抗性を持つようになります。有機リン系→カーバメイト系→ピレスロイド系といったように何種類か使い分けるようにしましょう。
- 薬剤は必ず用法・用量を守り、使用記録を残しましょう！

滋賀県家畜保健衛生所

(本 所)

近江八幡市西本郷町226-1

TEL:0748-37-7511

FAX:0748-37-4821

緊急携帯:090-3613-7486

(北西部支所)

高島市今津町弘川249-1

TEL:0740-22-2145

FAX:0740-22-6681

緊急携帯:080-6176-8052